

# 水道事業の概要説明



## 【本日の説明内容】

- ① 水道事業の沿革
- ② 水源及び水道施設の概要
- ③ 組織の概要
- ④ 水道事業の現状と課題

# ①水道事業の沿革

写真:平川ポンプ所



写真:城陽団地加圧ポンプ所



## ①水道事業の沿革

○昭和37年7月に創設認可を受け、昭和39年12月に市内給水を開始

○給水人口、給水量とも減少傾向

給水人口は77,225人、一日最大給水量は25,595m<sup>3</sup>/日、給水普及率は99.7%(平成28年度末)

事業名	認可年月日	計画給水人口 (人)	計画1日最大給水量 (m <sup>3</sup> /日)	備考
創設	昭和37年7月25日	20,000	4,800	
第1次拡張事業	昭和43年3月28日	36,000	12,600	
第2次拡張事業	昭和47年3月31日	91,000	48,200	
第2次拡張事業 (第1回変更)	昭和50年1月25日	91,000	48,200	取水地点変更
第2次拡張事業 (第2回変更)	昭和53年3月31日	91,000	48,200	浄水方法 取水地点変更
第2次拡張事業 (第3回変更)	平成3年3月30日	93,000	48,200	浄水方法 取水地点変更
第2次拡張事業 (第4回変更)	平成16年12月24日	93,000	48,200	取水地点変更

## ②水源及び水道施設の概要



写真：第3浄水場-自然ろ過施設

### ②水源及び水道施設の概要(1/5)

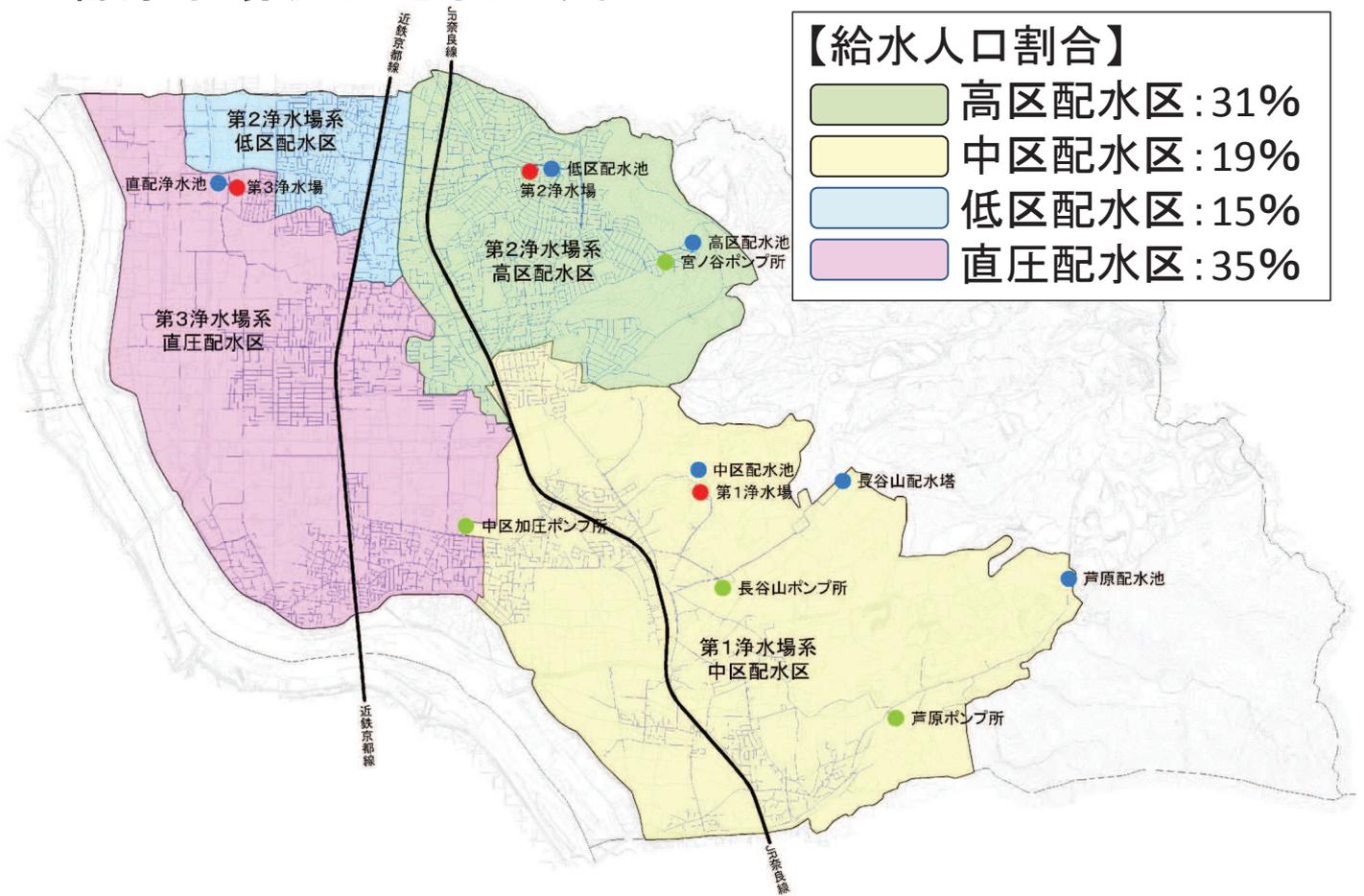
#### <水源及び水道施設の概要>

- 浄水場：3施設、配水池：6施設（内配水塔1施設）、  
加圧ポンプ所：4施設
- 管路延長：約255km

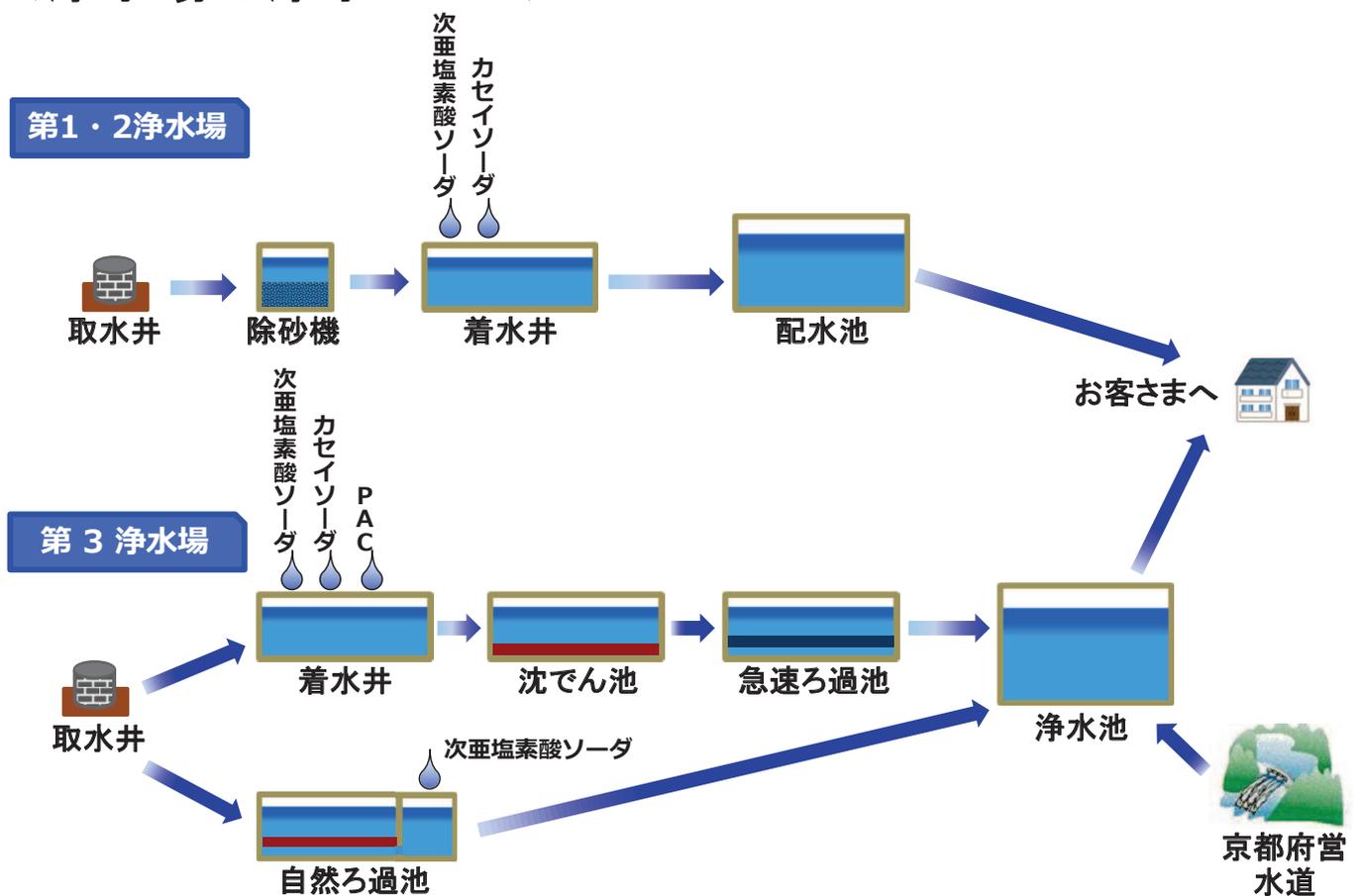


浄水場	水源種別	
	第1浄水場	自己水
第2浄水場	自己水	深井戸
第3浄水場	自己水	深井戸
	府営水受水	表流水

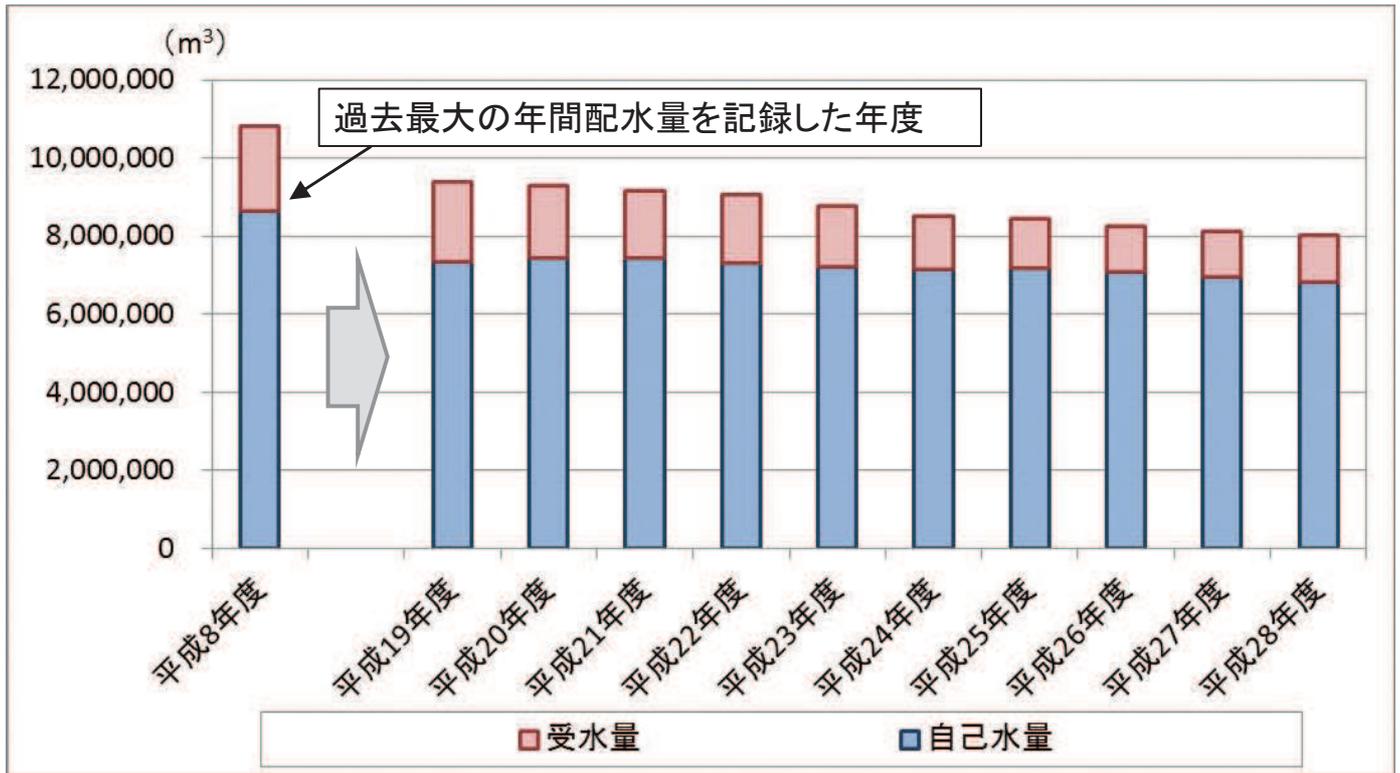
## <各浄水場及び配水区域図>



## <浄水場の浄水フロー>

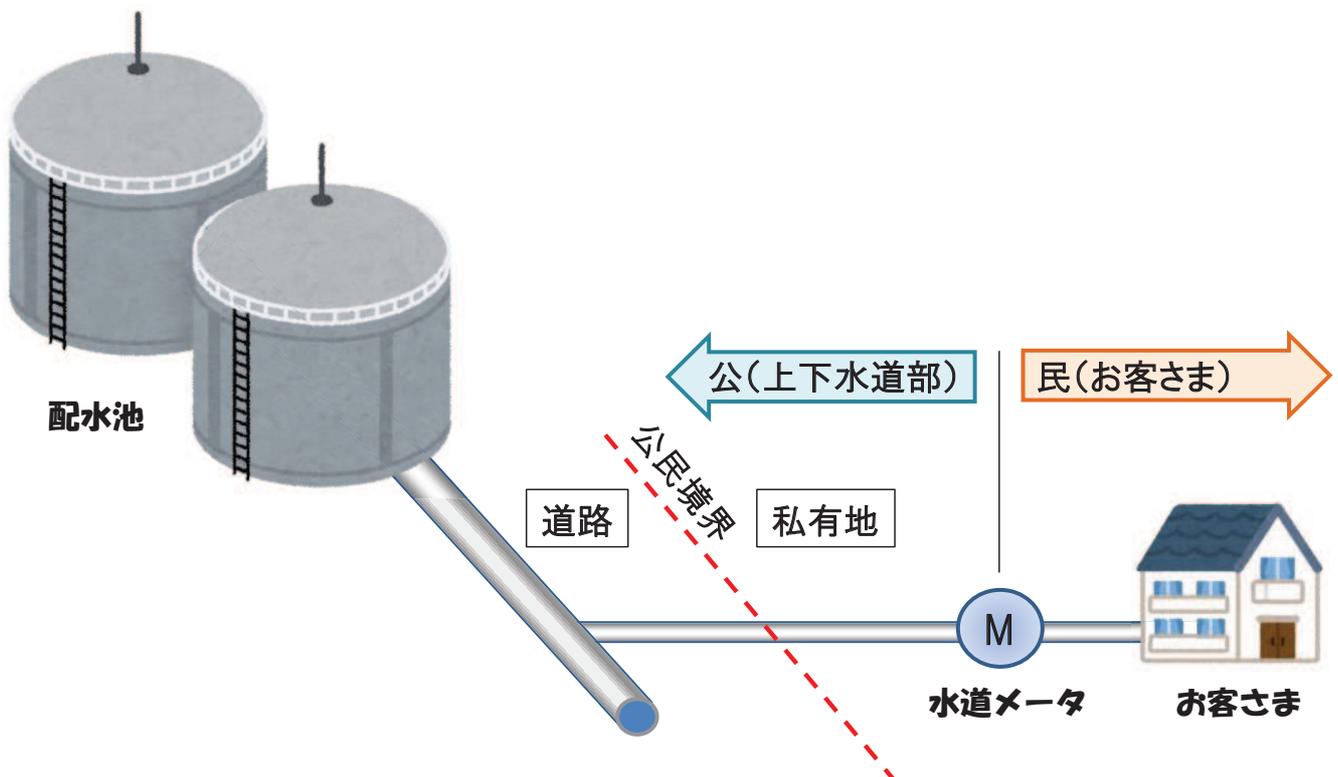


## <自己水量と受水量>



自己水量：受水量＝80：20（平成8年度）  
 ＝85：15（平成28年度）

## <水道施設の「公」、「民」の責任分界点>



### ③組織の概要

写真: 第1浄水場



写真: 第2浄水場

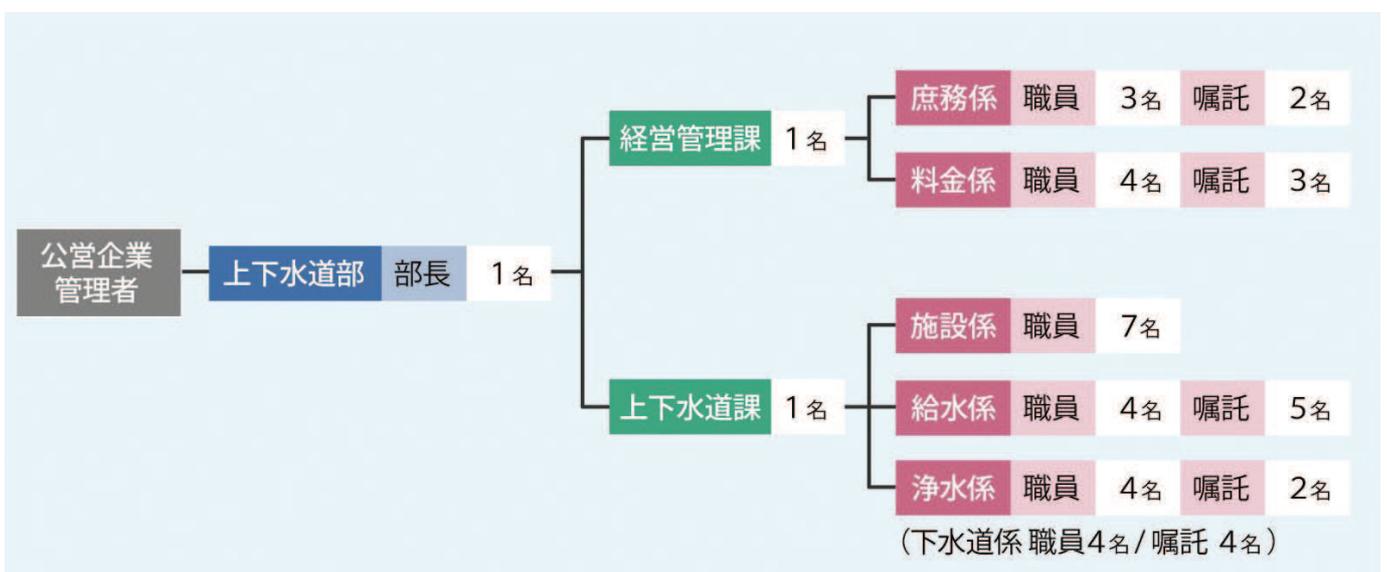


写真: 第3浄水場



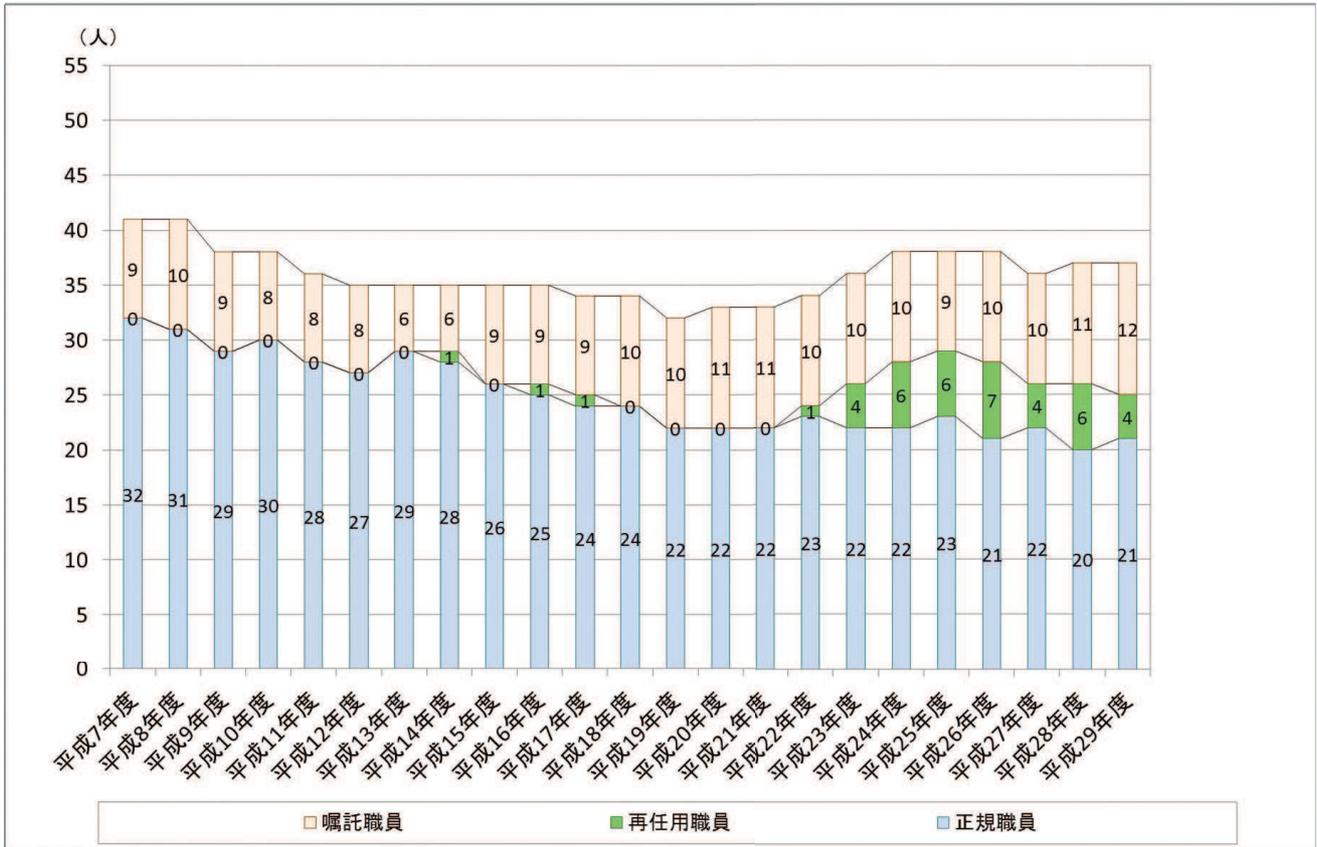
### ③組織の概要(1/3)

- 上下水道部は2課6係で構成され、職員数は全体で45人
- 水道事業に係る部門は、事務職14人、技術職22人  
(他に、部長1人)

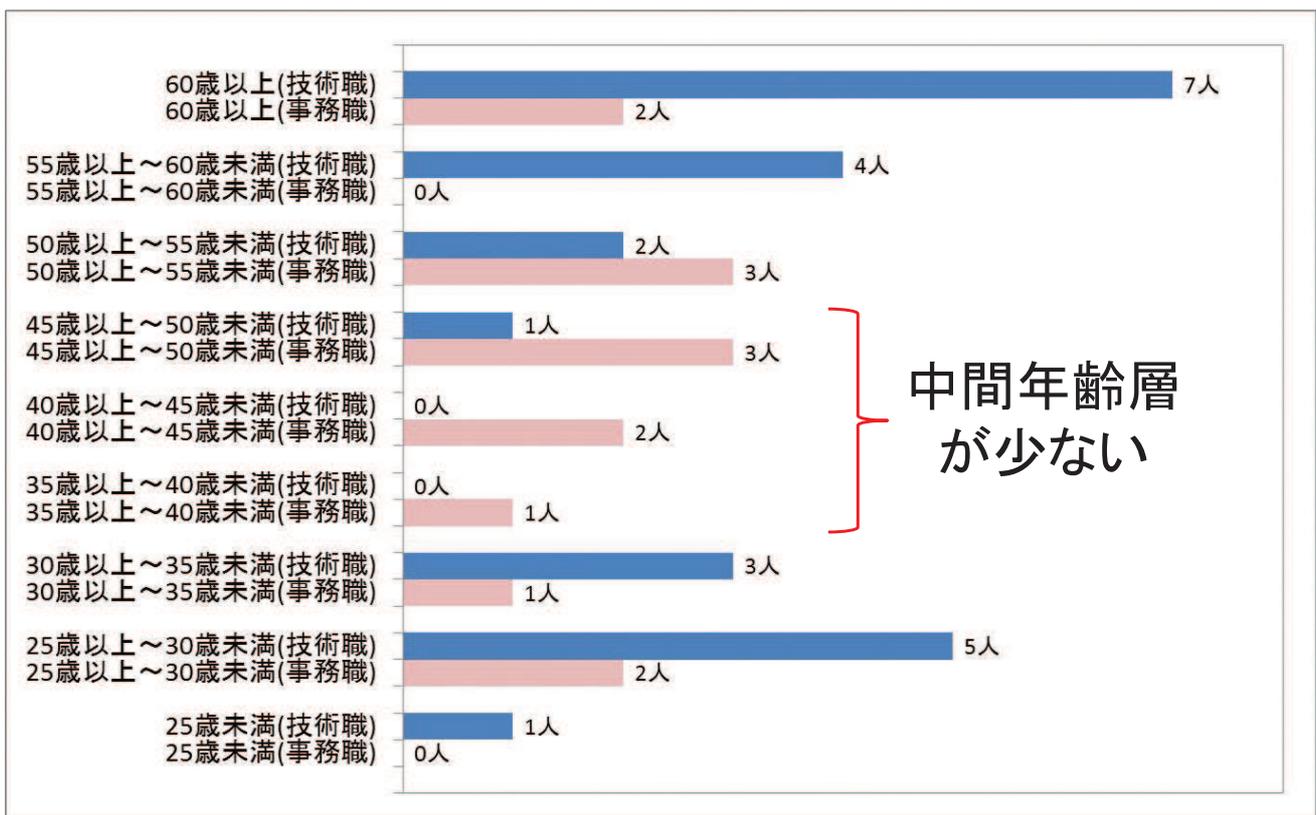


平成29年4月1日現在

## ○職員数の推移



## ○職員の年齢構成(正規職員、再任用職員、嘱託職員)



## ④水道事業の現状と課題



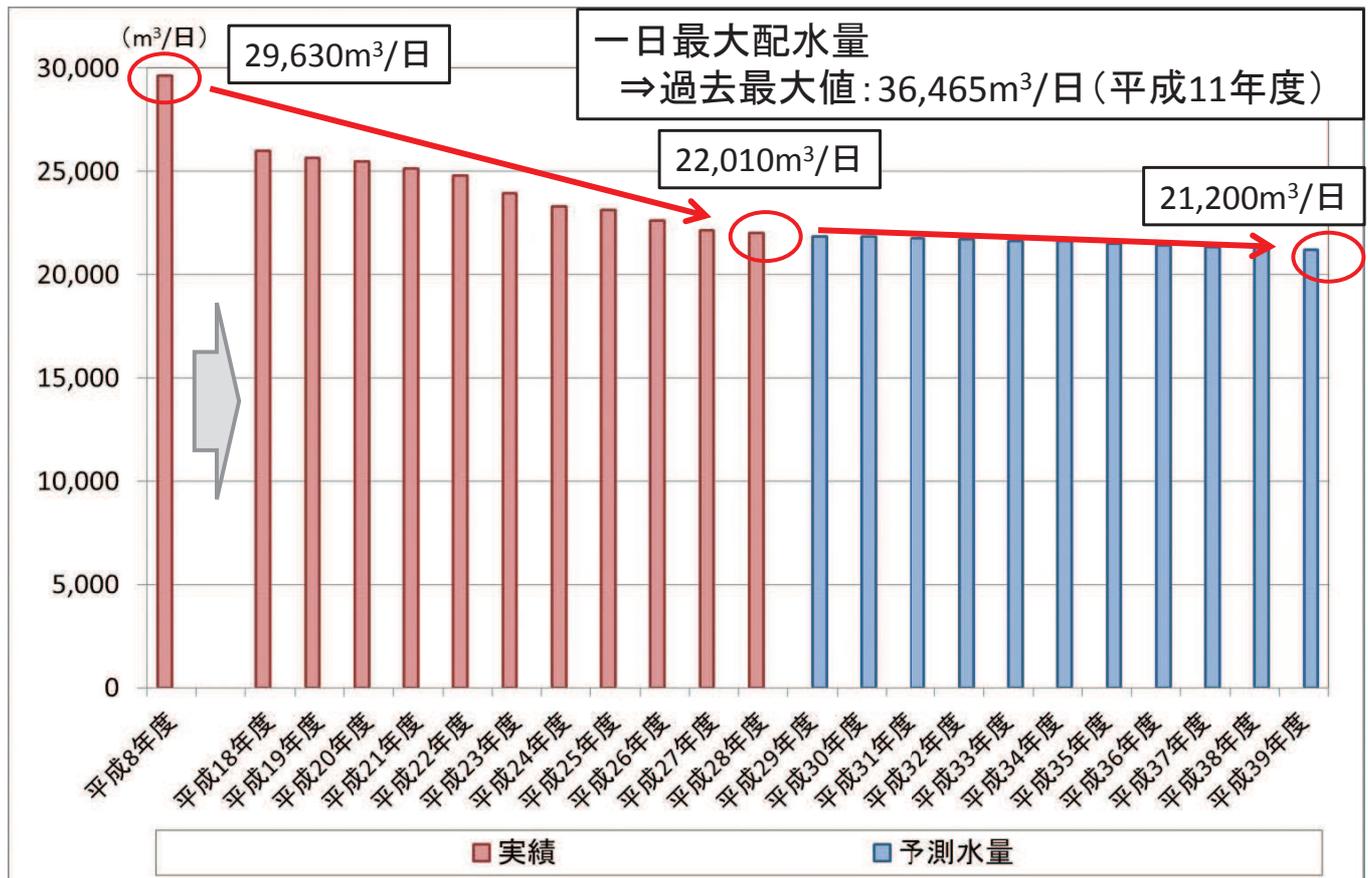
写真:水道管路の更新工事



写真:水道管路の漏水

### ④水道事業の現状と課題(1/9)

### <水需要の動向(1日平均配水量)>

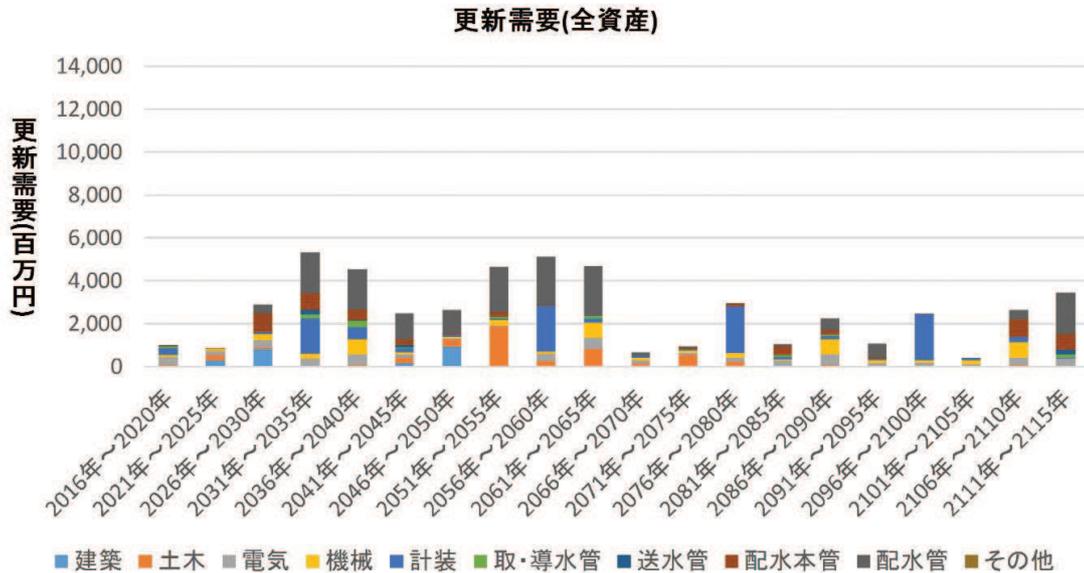


## ＜更新需要の把握＞

○現状で所有している資産の更新費用を算出

⇒今後100年で約552億円

(施設・設備:279億円、管路:273億円)

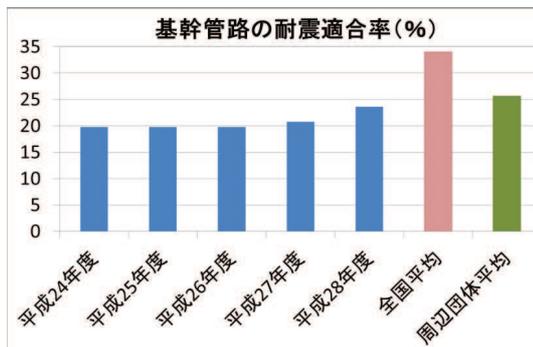
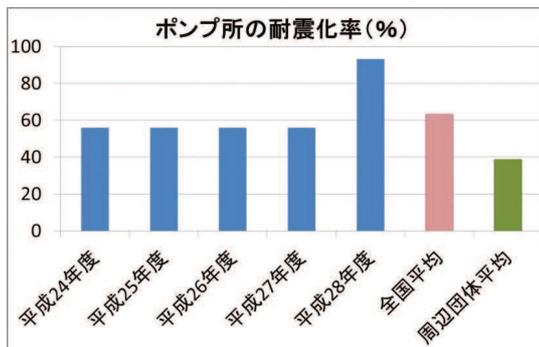
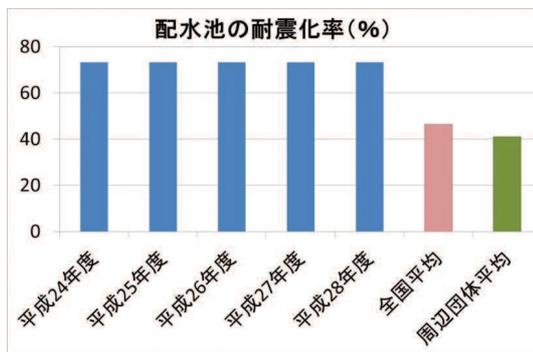
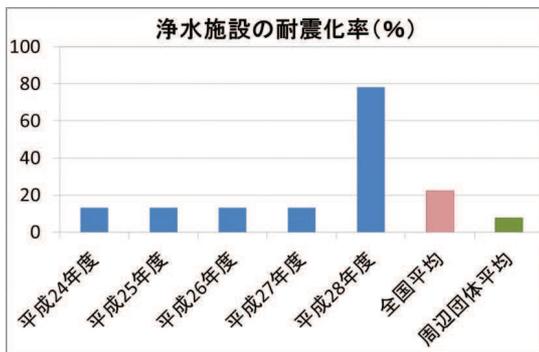


資料:平成27年度水道施設整備実施計画

## ＜事業の分析・評価(耐震)＞

○施設の耐震化率は改善

○基幹管路の耐震適合率は低い

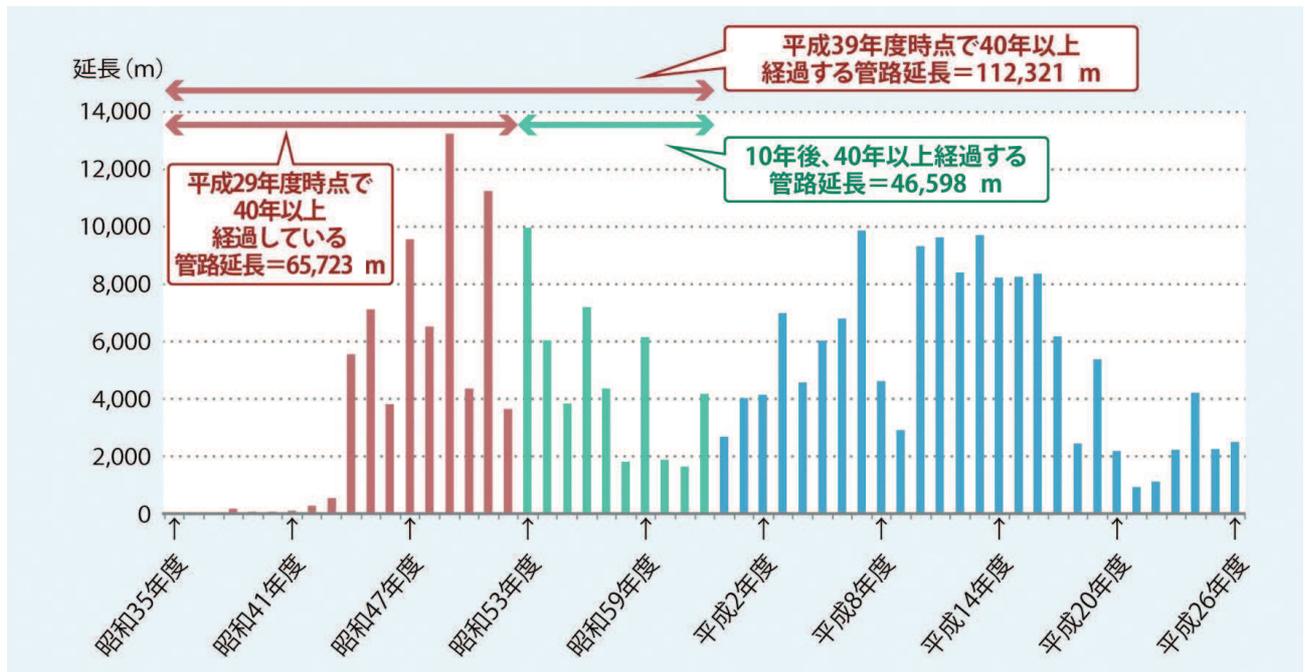


周辺団体  
宇治市、向日市、長岡京市、大山崎町、八幡市、京田辺市、木津川市、久御山町、精華町

※耐震化率/耐震適合率=所定の耐震性能をもつ施設能力(延長)÷全施設能力(延長)×100

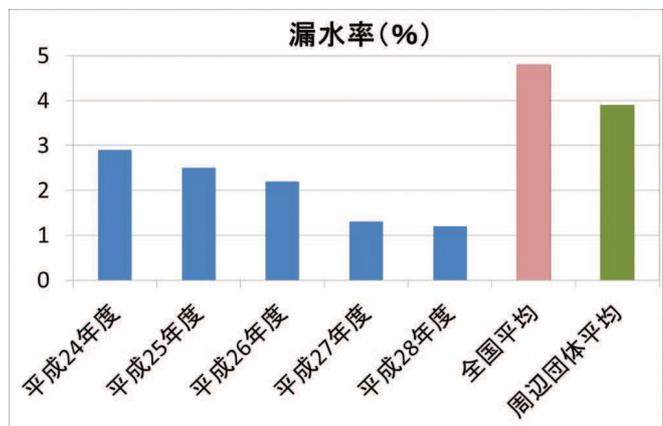
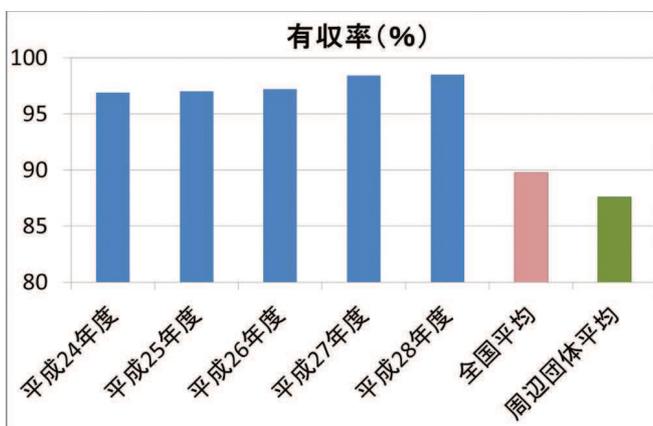
<事業の分析・評価(老朽化)>

○法定耐用年数(40年)を超える管路が増大



<事業の分析・評価(水の有効利用)>

○有収率は高い水準を維持  
○漏水率は低い水準を維持

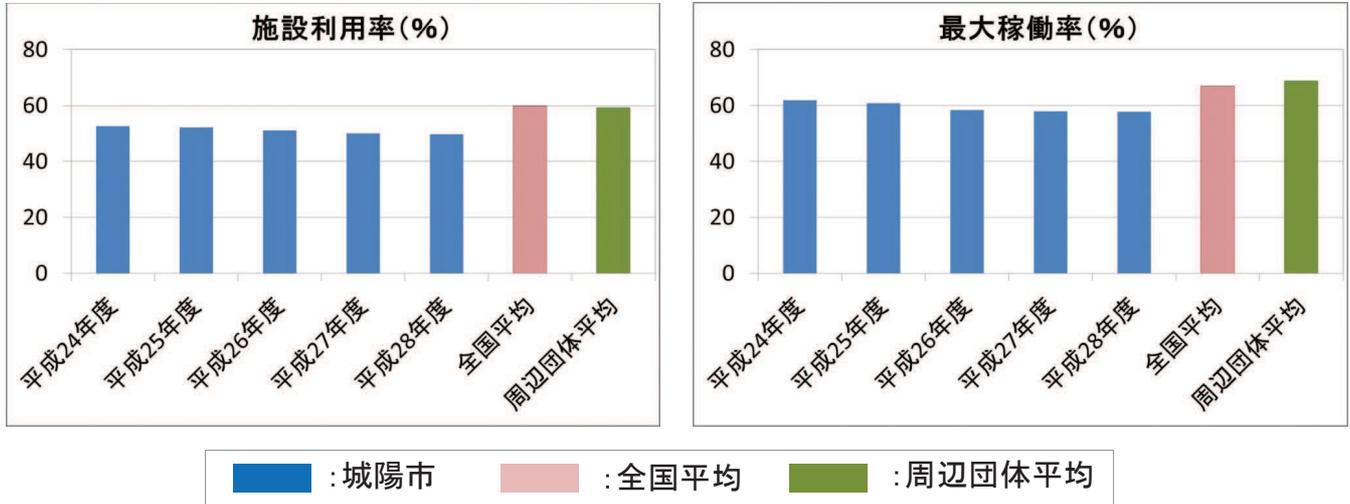


■ : 城陽市    ■ : 全国平均    ■ : 周辺団体平均

※有収率=年間有収水量÷年間配水量×100  
※漏水率=年間漏水量÷年間配水量×100

## <事業の分析・評価(効率性)>

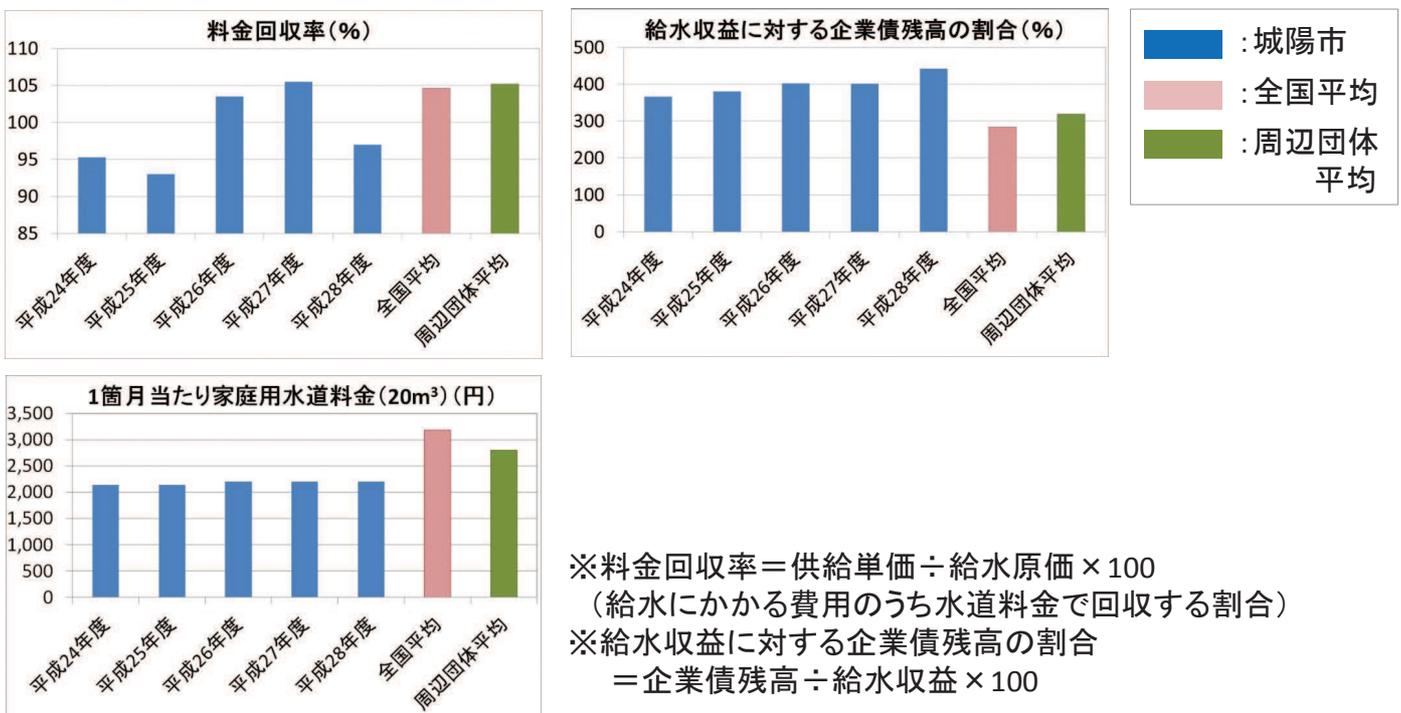
- 施設利用率、最大稼働率ともに低下傾向
- 水需要の低下により、今後は更に低下



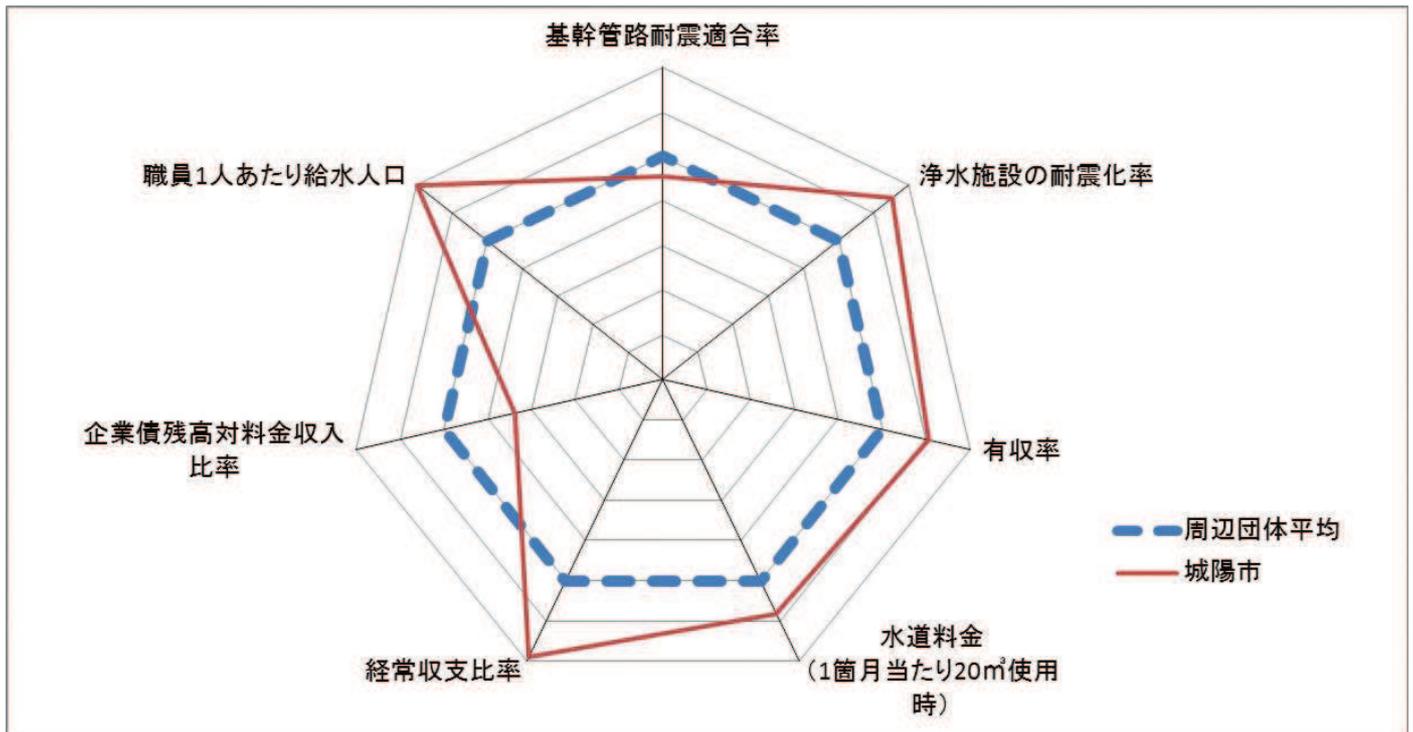
※施設利用率＝一日平均配水量÷施設能力×100  
 ※最大稼働率＝一日最大配水量÷施設能力×100

## <事業の分析・評価(料金)>

- 料金回収率は100%未満
- 企業債残高の割合は増加傾向
- 水道料金は比較的安価



## <事業の分析・評価(主要指標の周辺団体比較)>



## <事業の分析・評価(まとめ)>

- 管路の老朽化対策、耐震化の推進が必要
- 施設系の耐震化率は高水準
- 有収率は高い水準
- 水道料金は周辺と比較して安価
- 経常収支比率は周辺と比較して高水準
- 企業債への依存度が高く、将来的な負担が大きい
- 給水人口に対し、職員数が非常に少ない